

平成 29 年度 自己評価結果公表シート

大谷幼稚園

1 本園の教育目標

「子どもたち一人ひとりにありがたい心が育つ教育を目指す」

- ・思いやりのある優しい子を育てる（宗教的情操教育・保育）
- ・自然と触れ合う環境の中で、好奇心や探求心を持つことにより、創造力を伸ばす性豊かな子（創造の芽を伸ばす教育・保育）
- ・心身ともに健康で、基本的な生活習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図ることであらゆる事象が関係しあっていることに気づく（社会性を養う教育・保育）

2 取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した幼稚園評価の具体的な目標や計画

保育の理念を再認識し、平成 30 年度から実施される教育要領をふまえて設定した評価項目に沿って自己評価を行うことによって、教職員自らが客観的に自園と自己を見る目を養い、教育内容の改善に自主的に取り組んでいく

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	取組状況
I 教育内容		
1 園の教育理念・教育方針の理解	B	園の目指す幼児の姿を理念・方針に見出す
2 教育要領の理解	C	平成 30 年度の新教育要領への取り組み
3 教育課程の編成	B	担任同士の協議・連携
4 指導計画の作成	B	園の方針を指導計画に生かす努力
5 環境の構成	B	園児が主体的に取り組みたくするような環境づくり
6 保育の計画と評価・反省	B	週・月・学期単位の自己評価
II 保育のあり方、幼児への対応		
1 健康と安全への配慮	A	園児の健康状態の把握や環境構成
2 幼児理解	B	幼児の姿を多面的にとらえる
3-1 園児と共同作業者として	B	同じ目線にたつてものを見る努力
3-2 憧れの形成モデルとして	B	先生のようになってみたくと思われるモデルになっている
3-3 園児のよりどころとして	A	園児をありのまま受け入れる

3-4 遊びの援助者として	B	園児の遊びに適切な援助をしている
3-5 園児の指導	A	どの園児も無視したり、罰を与えたりしない
4 保育者同士の協力・連携	B	クラスに関係なく適切な言葉がけなど
Ⅲ教師としての資質能力・良識・適性	B	
1-1 専門家としての能力	B	教諭としての専門知識・良識・適性への努力や志向性
1-2 良識とマナー	A	教育保育者としての誇りと自覚ある行動
1-3 専門家としての義務	A	園児と保護者の顔・名前・性格等分かろうとする努力
2 組織の一員として	A	職員全体で一つのチームであり、みだりに他言しない
3 教育・保育の楽しみ・喜び	A	幼児との生活が楽しい
4 周りを感じ取れる感性・アンテナ	A	自然や社会の出来事にも関心がある
Ⅳ保護者への対応	B	
1 情報の発信受信	B	園児の様子、園の考え方、保育のポイントなどを園だよりで知らせる
2 協力と支援	A	保護者への支援は可能な限り教職員の合意で行う
3 守秘義務の遵守	A	個人情報の管理は園の方針に沿っている
4 対応上のマナーや常識	A	保護者の話をゆっくり落ち着いて聞き丁寧な対応に心がける
5 クレームへの対処の仕方	A	謙虚に聞き、園長に連絡・報告・相談をする
Ⅴ地域の自然や社会との関り	B	
1 地域の人との関わり	B	地域の人と親しく挨拶や会話を交わす
2 小学校との接続・連携	C	小学校の教育内容を知るようにしている
3 地域への開放と支援	C	地域の人々への園の開放や部屋の貸し出しをしている
Ⅵ研修と研究	A	
1 意欲・態度	A	研修には課題をもって参加している
2 専門性に関する研修・研究	C	幼児観・教育観の確立のために研修を行う
3 遊具・教材に関する研修・研究	C	遊具・教材を子どもがどんな使い方をするか予測する
4 園内・環境に関する研修・研究	C	園内環境を教育・保育に活かしている
5 今日的課題に関する研修・研究	B	アレルギー・自立の遅れなどの理解
	B	危機管理について現状や在り方の研修
	B	障がいのある子への理解のための研修
6 自らを高める研修	A	色々の人と意見の交換やお話を聞くようにしている

4 具体的目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	教職員一人ひとりが幼稚園評価の主旨を理解し、自己点検及び自己評価に取り組むことができた。新しい教育課程をもとに客観的な目で自らの保育活動を振り返り、改善が図れるようにしたい。

A: 十分達成されている B: 達成されている C: 取り組まれているが、十分でない D: 取組が不十分である

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
①新教育要領の理解と指導計画の編成	幼児教育から小学校への接続や幼稚園と保育園との連携など今後の教育・保育目標に取り組む。年間を見とおした計画的な研修の工夫がより望ましい。質の高い内容に取り組む。
②研究と研修	研修への参加意欲は高まってきたが、園内外の環境をいかに日常の保育・教育に生かすかがこれからの課題である。
③指導計画の編成	園の環境と子どもの実態に即した指導計画にするため、指導内容の十分な反省をふまえ編成に取り組む。
④自己点検及び自己評価	評価項目等については、教職員全体の共通理解をもとに設定し、個々達成の目標を立てる。

6 平成 29 年度学校(幼稚園)関係者の評価

総合評価

全体として妥当な保育・教育及び運営がなされていると認められる。また、評価項目個々について、教職員が真面目に検討された様子がよくわかる結果といえよう。今後も前向きな教育内容になるよう取り組みを期待する。

具体的評価

	評価観点	評価結果
①	自己評価結果の内容について	教育目標に沿って大きく6つの分野別の評価項目を設定し、一つ一つの評価項目について、教職員個々が達成状況を4段階による評価を行う方法をとるなど妥当性を確保するための望ましい工夫がされている。評価内容はおおむね妥当と考える。
②	自己評価結果を踏まえた今後の改善方策について	今後の取り組むべき課題を4項目挙げ、具体的な取り組み方法を示すなど適切な改善策と方向性が示されている。
③	重点的に取り組むことが必要な目標や計画、評価項目について	教育目標に沿って6つの分野に基づき、多くの評価目標を設定することで、教職員自らが客観的に自園を見る目を養うように配慮するなど、適切に計画されている。

④	幼稚園運営の改善に向けた取り組みについて	園運営の具体的内容である研修計画、教育課程の編成や教育指導計画の作成に取り組むべき内容が明確に示されている。また、同一の質問を保護者と職員に提供することで双方の考えがわかったことは今後の運営に良好な示唆を示す。
---	----------------------	---

平成 29 年度 大谷幼稚園関係者評価委員会委員名簿

平成 29 年 5 月 1 日現在

名 前	所 属 等
岡田 直彦	富田林市立寺池台小学校長
井上美智子	大阪大谷大学教授、幼児教育実践センター長
東浦 幸司	大谷幼稚園後援会会長